

令和7年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力を高めるとともに、物語文や説明文の内容を順序だてて読みとる力を養うことが課題である。 ・平仮名、片仮名を定着させ、文の中で正しく使えるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や読み聞かせなどを行い、語彙を増やすようする。大切な言葉や理解が難しい言葉にはランクを引き、共通認識できるようにして読み取らせる。【発見・表現】 ・言葉遊びなどの中で文字を読むことや、書くことを丁寧に行い、楽しく身に着けられるようにする。【表現・対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成分解を理解し、計算力を伸ばすとともに計算ミスしないよう工夫することが課題である。 ・引き算の仕組みを理解させ、定着させる必要がある。 ・問題文を正しく読み取ったり、立式したりする力を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で基礎計算を練習する時間を設けたり、計算ドリルやプリントを繰り返し行ったりすることで、計算力の向上を図る。【発見・表現】 ・場面絵や作図を通して、減法の意味を理解させる。【発見】 ・問題文のキーワードになる言葉に印を付け、何が大切なかを意識できるようにする習慣を身に付ける。【発見・表現】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・「季節を感じること」や「植物・昆虫などに直接触れたりすること」、「自然素材などでおもちゃを作り遊ぶ活動」をするなどの活動において、個々の生活体験の差がある。そのため、自然愛護、自分たちの遊びや生活を向上しようとする態度を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を育て、観察する活動を通して自然と関わり、実体験から学習活動を実施する。主に朝顔の観察を通して、五感を使って気付いたことをカードに記録していく。【発見・表現】 ・植物や昆虫等に興味をもたせる中で、四季ごとに校庭や近隣の公園へ行き、観察したり触れたりする活動を取り入れる。また、ICT機器や図鑑等を活用し、友達と共に共有する楽しさを感じながら理解を深めさせる。【発見・対話】 ・自然素材や身近な材料を使って、おもちゃ作り等の工作や遊ぶ活動を通して、友達と交流して学ぶ楽しさを実感することができるようとする。【表現・決定】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の雰囲気を感じ取って表現する力を育成していく必要がある。 ・鍵盤ハーモニカに親しみ、正しい指使いや吹き方を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れに乗って表現の仕方を工夫し、身体表現、言葉や手拍子を組み合わせたリズム遊びなどを取り入れ、表現を広げるための技能を身に付けられるようとする。【表現】 ・指遊びを取り入れることで、指の動きをスムーズにし、鍵盤ハーモニカの演奏につなげる。【決定】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の環境の違いから個々の経験の差があるため、道具の名称や使い方を知り、繰り返し使用することで理解を深めていく。また、材料から創造しながらつくる中で、作品を仕上げていこうとする力を伸ばすとともに、すくんで楽しく表現で生きるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の活動のなかで、使う道具の名称や安全な使い方について確認することを繰り返し、身に付けてさせていく。横断的に学習の中で使う機会をもてるよう単元設定を工夫していく。【発見】 ・手本を提示したり、いろいろな材料をに触れたり、自分で見付けたりする楽しさを知らせる。そして、友達と対話しながらイメージを膨らませて、楽しめるようにする。【対話・決定・表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験について差が見られるので、基本的な運動機能（走・跳等）の動きを身に付ける必要がある。 ・個や集団行動での決まりを理解して、チームでのゲーム活動を楽しもうとする意欲を高めて、協力して楽しみながら運動経験を積ませる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動や体ほぐし運動を取り入れ、自分の体の動きや特長を確認しながら、意識をして体を動かす時間を設定する。【発見・表現】 ・様々な運動を経験し、基本的な運動機能が身に付けられるようにする。【発見・決定】 ・運動遊びにゲームを取り入れ視覚教材等を工夫して、ルールを守ることや協力して取り組めるよう声かけをする。【発見・対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字を使って文章を書く力や、「(点)」「。(丸)」「『』(かぎかっこ)」「くつつきの『は』」の使い方や、片仮名を正しく使う力を身に付ける必要がある。 ・文章を読み取った上で自分の考えをもち、友達と伝え合う力を持つ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に日記などの文章を書く学習を取り入れ、家庭と連携しながら繰り返し指導をしていく。【表現】 ・自分の思いや考え等を文章化し、発表しようとする意欲につなげる。【表現・対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の読み取りが苦手な児童が多いので、出題の意図を理解し、立式できる力を身に付ける必要がある。 ・繰り上がりの足し算、繰り下がりの引き算など基礎的な計算力を高める必要がある。 ・時計の読み方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文のキーワードに印をつけたり、具体物や図を用いたりして、問題場面を想像しながら立式できるようにする。【決定・表現】 ・すきまの時間で計算カードを使用するなど、家庭とも連携しながら、正確に速く答えを導けるように指導する。【決定】 ・家庭と連携し、日常生活で時刻を読む習慣を付けさせる。【表現・対話】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然への興味関心が低く、自ら働きかける力を育成する必要がある。 ・地域や身近な人の接する体験が少ないので、自分がどのように関わっていくかを考える力をつける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に第二校庭に出かけ、虫や植物などの身近な自然と関わる機会を増やす。【発見・決定】 ・校外学習の前に調べ学習をし、自分の生活と暮らし合わせながら振り返る活動を取り入れることで、身近な人とよりよく関わる力をつける。【表現・対話】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基本的な音符や拍、音階等についての理解を高めていく必要がある。 ・手先をより器用に動かし技術面を伸ばしていく必要がある。 ・表現力や想像力を発展させ、グループ活動を通して演奏する力を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやアクティビティを通じて音楽の基本的な要素を体験させる。【発見】 ・感情表現をするために、鑑賞や歌詞、旋律に合わせて、背景や感情の理解を考え、感じてさせる。【発見】 ・グループでの活動や練習を通じて、役割分担やチームワークを体験させる。【対話】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げて活動する場面では、固定概念にとらわれがちであるため、自分なりの考えを広げる力を身に付ける必要がある。 ・習ったことを生かす経験が不十分なので、中学年に向けて、表したいことに合わせた表現を工夫するための技能を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の時に教師が主導するのではなく、なるべく児童との対話を通して発想が広がるようにする。【表現・決定】 ・材料や用具を限定して基本的な使い方を定着させる。また、既習事項を生かした題材を取り入れよう、指導計画を見直す。【発見】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを優先させてしまうことがあるため、友達と楽しく運動する力を身に付ける必要がある。 ・基礎的な運動技術を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画でルールを確認してみんなが楽しく活動できるように工夫し、ワークシートを活用してチームで協力できたか振り返ることができるようになる。【表現・対話】 ・指導者が運動遊びの目的を理解し、基本的な動きが身に付くような場の工夫を行う。【発見】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の定着を図る必要がある。児童によって定着の差が大きい。 ・相手の話をしっかりと聞き、必要な情報を聞き取る力につける必要がある。 ・自分の思いや考えを相手に伝わるような文章で書き表す力につける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な場面で既習漢字を用いる活動を取り入れ、漢字や文章を書く機会を増やす。【発見】 ・ペア・グループワークでの話し合い活動を多く取り入れ、最後に話し合ったことの要約をして、話し合いの中心の内容を確認する。【対話】 ・「書く」活動を増やし、具体的な事例を交えた書き方や、段階的な修正を通じて、自分の考えを整理していくようにする。【発見・表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・技能は学齢相當に身に付けられているが、思考力、判断力には大きな差が見られる。身に付けた技能を応用できる力を育成する必要がある。 ・文章問題で正答率が低い。問題文を読み取れる力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の把握→既習事項とのつながり→自力解決→ペア・グループでの意見交換→考えを深める→ふり返り、のように協働的探究型の学習の機会を増やす。【発見・対話・決定】 ・文章題で何を聞いているのかを明確にするために、図やイラスト、ICT機器を活用して視覚的に問題を把握したうえで練習に取り組んでいく。【発見】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに、自然の事物・現象の差異点や共通点を基に、問題を見出すといった問題解決の力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象との出会いを基に、みんなで問題を見付け解決していく流れを作る。【発見】 ・仮説を立てることで、問題解決に向けての方向性を明確化させていくようとする。【決定】 ・実験、観察を行う理由をしっかりと考えながら行わせるようにする。【発見・決定】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分の生活と結び付けて考え、課題を把握する力を育成する必要がある。 ・資料・地図の読み取りに慣れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分の生活に関連させて、身近な問題として捉えて考える機会を設定する。また、地域の学習に関係のある方から話を聞く機会を取り入れる。【発見・対話】 ・グラフや資料、地図を丁寧に読み取る時間を取り入れる。【発見】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表現する楽しさと技術習得とのバランスを身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもった演習を細かく設定する。【発見】 ・評価の機会を増やし、満足感を味わえるようにする。【表現】 ・発表の機会を設定する。【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組めている一方で、集中力を保つための工夫が必要がある。 ・整理整頓や、道具を丁寧に扱う意識向上を図る必要がある。 ・想像力や観察力の向上のため、体験活動の充実が必要である。 ・作品作りの技能と、それを支える思考力と発想力の両面を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を聞くことや整理整頓について、担任と協力して一貫した指導をする。【表現】 ・図鑑や視覚資料を、作品制作に活用する。【発見】 ・鑑賞の時間を設け、他者の作品に触れることで、発想力や制作意欲を高める。【表現】 ・繰り返しの経験と指導で、定着を図る。【決定】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の楽しさに触れて、基本的な動きや技能を身に付ける必要がある。 ・ルールを守って仲間と協力して活動する力を身につけさせる必要がある。 ・自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを伝え合う力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす心地よさを味わいながら多様な動きを組み合わせる活動を取り入れる。【発見・表現】 ・チームゲームや集団運動を多く取り入れ、ルールを守る態度や仲間と協力する楽しさを味わえるようにする。【対話・表現】 ・自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える活動を取り入れる。【決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着を図る必要がある。 文章を正しく読み取る力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の学習の時間はもちろん、他教科や他場面でも既習漢字を用いることを意識させる。漢字テストの取り組み方や採点方法の工夫をして「できた」を実感させる。【表現】 継続的に音読学習に取り組ませることで、文章の流れをつかんだり、中心となる語や文を見付けてできるようにする。要点書き抜きや要約など、内容を理解する力を高める機会を増やす。【表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な計算が苦手な児童が多いため、計算技能を定着させる必要がある。 文章問題等を式に表す力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じたクラス分けを行い、各コースで児童の実態に合った授業展開をして、習熟を図る。【発見】 e ライブドリなど活用し、繰り返し練習問題に取り組めるようにする。【発見】 問題解決型学習を行い、自分の意見を友達と交流する場を設定する。【対話】【表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の流れを身に付ける。特に既習の内容や生活経験を基に、根拠ある予想や仮説を発想するといった問題解決の力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想、実験、結果、考察など、思考の流れをもとに問題解決を行う。【決定】 課題に対する考えをより説得力のあるものにするために、友達と意見を交流する場を設定する。【対話】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 様々な疑問から学習問題を見出し、学習計画を立てることはできているが、調べる学習では、資料を読み取りまとめる力に個人差が大きい。グラフや資料を読み取る力を高める必要がある。 学んだことを活かし、自分たちにどんなことができるなどを考えたり選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや資料の読み取り方を繰り返し指導し、事実を正しくとらえられるようにする。また、友達と考えを共有して交流する機会を設定し、自分の考えを表現できるようにする。【表現】【対話】 学習と生活に関連させながら身近な問題として捉えさせ、課題と自分達にできることを明確にさせる。【決定】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーを持って音楽の活動に生き生きと取り組む児童が多い。集団としてつながりを持ちながら対話を大切にし、音に集中し、良い音を求める力を持つていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーに苦手意識のある児童には、運指、息遣い、タンギング、読譜を段階的に分けて、安心して学習に取り組める環境づくりをする。 個別指導の時間を工夫する。 うた遊びを通して、リズム感を養いながら、児童同士の音と心のつながりを強めていく。【対話】【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 感性が豊かで、自分なりの造形的視点をもった児童が多い。表したいことを表現するための知識を技能として生かしていく力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを明確にし、学んだことを生かして積み重ねていくことができる題材計画を立てていく。【発見】 作品の鑑賞活動を積極的に取り入れ、見方・感じ方を深めていくことができるようする【対話】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題をもち、課題を意識しながら活動できるようにする。 友達と協力しながら技能を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の振り返りを行い、次時の始めに見返すことで、課題意識をもって授業に取り組めるようにする。【決定】 教え合い、共有する機会を設定し、協力することで運動の楽しさにつなげていく。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・自分の考えを話したり友達の考えを聞いたりする活動は意欲的に取り組む姿がみられるが、自分の考えを順序立てて書く力を伸ばす必要がある。	・自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりした後に、自分の考えとして書く活動へつなげていく。【対話】		
算数	・四則計算などに正確に取り組むことができる力を育成する必要がある。 ・文章題において、文章の内容を正確に読み取り、式を立てる力を付ける必要がある。	・e ライブラリアドバンスなどを活用し、個別最適な学習環境を整え、学んだことの定着を図る。【決定】 ・自分の考えを言葉や図、式、数直線などを用いて説明する活動を意識的に取り入れる。【対話】		
理科	・問題解決の流れを身に付けていく必要がある。自然の事物・現象から見出した問題についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想するといった問題解決の力を育成する必要がある。	・観察、実験するときの視点を明確にする言葉を児童から引き出す。【決定】 ・友達と自分の考えた解決の方法を交流する場を設定する。【対話】		
社会	・社会的事象に興味・関心が高いが、グラフや資料から読み取り、事実を基に自分の考えをもつ力を高める必要がある。 ・一人一人の考え方や調べたことを共有し、考えを広めたり深めたりする活動を行う必要がある。	・グラフや資料を基に、事実を読み取る活動と、思考する活動を分けて考えさせ、自分の考えをもたせる工夫をする。【発見】 ・調べて分かったことを ICT やペアワークなどを通して、個々の考えを共有する場面を設定する。【対話】		
音楽	・技術面の基礎基本を大切にしながら個別指導を含め丁寧に学習を進めることを徹底した結果、自信を持って演奏し、進んで練習をする姿が多く見られるようになった。個別だけでなく、集団の中でもアイコンタクトと息をあわせる2重奏や合奏など協働的な活動を多く経験させて、音楽の喜びを体得させる必要がある。	・運指・息遣い・タンギング・読譜を分けて段階的にわけ、安心して学習を進められるような方法を継続する。自主練習ができるようにタブレット端末に指導動画を作成したり廊下の壁に楽譜を貼つたりして環境を整える。自分の音、友達の音を聴いて感じることができる場面を多く設定する。【発見】 【表現】		
図画工作	・造形活動に意欲的に取り組む姿があるが、学んだことを積み重ねて活用できる力を伸ばす必要がある。	・既習事項を生かした活動ができるような年間指導計画を立てる。【発見】 ・授業の終わりには振り返りをさせることで、何が身に付いたのかを児童が意識できるようにする。【決定】		
家庭	・日常生活と学習内容を関連させて考えられるようにし、実践力を身に付けさせる必要がある。	・ペアや少人数で教え合う時間の確保をし、学び合いができるようにする。【対話】 ・実習の報告や振り返りにタブレット端末を活用することで、活動を視覚化する。【発見】		
体育	・自己やグループの運動の課題を見付け、解決のための方法や活動を工夫することや、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う必要がある。 ・運動を楽しむために、個々に合わせた運動の取り組み方を見つける必要がある。	・運動に取り組むだけでなく、互いの動きを見合ひ、助言する機会を設定することで、課題を把握する力を養う。【発見】 ・「やったこと」「わかったこと」「つぎにがんばりたいこと」の視点で学習を振り返り、体育ノートから抜粋した児童の気付きを共有する。運動のコツはもちろん、友達の良さを認め合い、互いに高め合う場を設定する。【対話】		
外国語	・自分に身近なテーマでは、発表意欲も高く、多くの児童が発言することができたが、学習内容を活用して表現する力付ける必要がある。	・楽しみながら自分の思いを伝えられるよう、ゲーム形式を取り入れるなど、活動を工夫する。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 作文に対して苦手意識を持っている児童がいるので、何を書けばよいか、どのように構成を考えていくかといった書く力を育む課題を、単元設定していく必要がある。 教材文の読解力は十分にある。一方、話を聞く力が低く、対話での内容理解ができない児童が多い。聞く力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く内容を示し、文章構成を立ててから、原稿用紙等に書くことで、書くべき内容を掴みやすくなる。また、ワークシートを児童に選択させたり、ICT をしたりすることを通して、書くことに対する抵抗を減らしていく。【表現】 ・対話の活動を増やし、感想や質問を伝え合う機会を増やしていく。【対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な計算力について、小数点の位置を間違えないようにすることと、通分・約分の練習をしていく必要がある。 ・文章題の読解力をつけ、問題に適した立式を導くことができるようにしていく必要がある。 ・「データの活用」の領域が、全国平均と比べて低く、学んだことを定着させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して計算の練習を積み重ねていき、理解を定着させる。【決定】 ・文章題で間かれていることを明確にするために、数直線図、平面図、イラスト、立体模型、ICT 機器を活用して視覚的に問題を把握したうえで、練習に取り組んでいく。【発見】 ・問題解決に向けて考えを交流する時間を設定し、解決に向かう力を伸ばす。【対話】 ・表やグラフを読み取る際に、解くための根拠を明らかにする。また、算数だけでなく、他教科などで表やグラフを活用した資料を作成する時間を設ける。【発見】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象から見出した問題について追究し、より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の結果などは視点を決めて整理する。 ・結果の共通点・差異点や傾向に着目して考えられるようにまとめさせる。 ・グループで交流する中で一つの考え方を導けるように話し合う場を設定する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料等を読み取った上で、まとめる力がついてきた。一方で、複数の事柄を関係づけて表現する力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で、本時で学習して欲しい内容に気が付けるように、資料を精選する。また、社会科における資料の読み取り方を提示し、見る視点を明確にする。【発見】 ・「なぜこのような法律ができたのか」などを考えさせる際に、考えるきっかけとして時代背景等を伝える。また、対話の活動を増やし様々な人の意見を踏まえ、まとめられるようにする。【対話】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持って演奏したり、進んで練習をしたりする姿が多く見られるようになった。特に2部合唱の響きのよさや面白さを楽しみ、積極的に互いの歌を聴きあう姿が見られた。器楽でも和声の響きに特化し楽しむことができた。洋楽の特徴を体感することができたので、2学期以降は邦楽を中心によさや特徴を感じ取り、音楽の多様性に気付かせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「雅楽」を聴き、よさや特徴を自ら探し深く感じ取る学習をする。【発見】 ・それらの音楽の持つ歴史を感じながら「今」の自分と向き合いながら演奏するための環境を整える。【発見】【対話】【決定】【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動に意欲的に取り組んでいるが、ねらいや身に付けさせたい力を達成するために見通しをもって取り組ませる必要がある。 ・造形的な視点を活動に生かすことができるようになる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習のねらいを明確にする。【発見】 ・作品づくりの基本的な順序を示し、見通しをもって活動できるようにする。【発見】 ・ねらいに沿った活動ができているか、活動を振り返ることができる振り返り活動に取り組む。【決定】 ・事実と根拠を明確にした鑑賞活動に取り組む。【対話】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 実習等を通して学んだことを実際の生活に活かせるようにする必要がある。 ・ミシン、裁縫道具などを正しく使って、自分の生活に役立つものを楽しく作らせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で実施することが難しい活動に関しては、動画視聴をしたり家庭に協力していただきたりすることで、より実践に近い形で経験をさせる。【表現】 ・ペアやグループの活動を取り入れ、友達と教え合いながら学習する機会を増やす。【対話】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きで、どの領域でも意欲的に活動できている一方で、自身やチームの課題を把握し、その課題解決に向けてどのようにすればよいかを考える力を付ける必要がある。 ・自分の考えを体現したり、言語化してチームの仲間に伝えたりできる力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と見合ったり、ICT を活用して自身やチームの動きを見直したりして課題に気付き、把握する機会をつくる。【発見】 ・動きの見合いや、伝え合い等、課題解決に向けてグループ活動や協働的活動を積極的に取り入れる。【対話】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英単語の発音、意味、英単語を使った会話といったコミュニケーションに関しては、意欲的に取り組めているが、文章にして書くことの力を付けれる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章だけでなく、英単語でも書く取り組みをこなし、英単語を書くことへの苦手意識を少しづつ克服し、作文力の向上等につなげていく。【決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。